

私 の 点 訳 ラ イ フ

国本 詔子

「二人に社会科の問題集の点訳をしてもらえますか。清水先生にご指導していただきますが」

ベアの矢野さんと図表の専門点訳を受講しはじめて間もない、ある日のことでした。思いがけない水谷先生からのお話、一瞬声を失いました。（どうしよう。センターでお世話になるようになって1年弱の私には、余りに荷が重すぎやしないだろうか。）頭の中では不安が渦を巻いていましたが、帰り道二人でいろいろ話し合い、良い機会なので教えていただきましょうと、有り難くお受けすることにしました。

図表の講習会も修了し、6月の半ばに「日本地理」の問題集をいただいて指導が始まりました。大まかな注意点、それから実際に点訳の方法を説明して下さいます。その手際によさに感心しているうちに、時間があっという間に過ぎていき、当初持っていた不安もいつの間にかなくなっていました。家に帰って教科書を見たり地図を広げたり、まるで学生時代に戻ったようでした。点訳本はもう少しで完成しますが、どなたかのお役に立つと思うと胸がドキドキします。

今回新しい分野を勉強させていただきましたが、一般書とはまた少し違った面白味があるように感じました。私にとってとても良い経験になりましたが、基礎の力が足りないことがよく分かりましたので、もう一度“てびき”をおさらいすることから一歩ずつ進んでいきたいと思っております。（くにもと のりこ）

Q 先日、「してない」は続けて書くのではないかと指摘されました。これまで区切っていたように思いますが、ルールが変わったのですか？

A はい、昨年改訂された「点訳の手引き」からルールが変わったのです。次の二つの例を考えてみましょう。

例1 シャボン玉はこわれて消えてないよ

例2 原稿はまだ出来てないよ

例1の場合は、シャボン玉は消えて存在しなくなったのですが、例2の場合は、原稿が出来ていないわけで、「いない」の意が略されているのです。「熱があるのだから寝てなさい」、「行ってらっしゃいませ」、「原稿は出来てません」、「校正してる」などの場合「い」が略されているから続けるのと同じ考え方で、「してない」も続けるのです。要するに、「ない」の前に「い」をおぎなってみて文が成立する場合は続けて書きます。尚、「なく」「なければ」「なかった」なども同じように扱います。

Q 他の資料からの引用や誰かの言葉の引用など、いわゆる挿入文の書き方についてですが、私は、前後を1行あけ、さらに全体を2マス下げて書いています。それでよろしいのですか？

A 挿入文全体を2マス下げる必要はありません。あなたの方法が特に悪いわけではなく、そのようにしておられる方も何人かおられますが、全体を2マス下げることは触読上絶対必要なそちではなく、特にパソコン点訳の場合は分かち書きを修正すると行頭の2マス下げが行の中ほどに来たりする恐れもあるので、下げない方が無難です。尚、前後1行空白を作るのは絶対必要な措置です。この他、第2段落挿入符というのも新しく追加されました。「点訳の手引き」改訂版をよく読んで、必要に応じて用いてください。挿入文中に空白行を作る必要が生じたり、新聞記事や日記など見出し、日付などが出て来る場合はいわゆる棒線枠を用いる方法もあります。これについては職員にお問い合わせ下さい。

点訳勉強会から

9月30日 当センター9FホールにおいてICCB点訳勉強会が参加者約50名のもと開催されました。講師は水谷さん、森さん、そしてリハビリテーションセンターからお手伝いに来られている橋本さん。内容については次のとおりです。

〈文章記号についての復習〉

点訳の手引きの、その2、囲み記号 (P.56) その3、線類 (P.61) 小見出し符類 (P.63) についての確認・復習。

〈質問コーナー〉

- ・ (以下略) (申略) 等の丸かっこの前後のマスアケについて
- ・ ルビのついた語の後に説明の丸かっこがある場合は?
- ・ 表紙の後に1ページを使って書かれている挿入分、引用文について
- ・ 心の中でつぶやいたり思ったりした文について
- ・ 分冊したときの書きはじめ
- ・ on/off等斜線の処理
- ・ km・キロメートル、 %・パーセントのように符号で書かれている箇所と日本語で書かれている箇所がある時は?
- ・ 東西南北のついた地名について

等、疑問に思っていることが出されました。検討を要するもの等その場で解決できないものもありましたが、水谷さん、森さん、経験豊かな先輩諸氏からのアドバイスは日頃の悩みに大いに参考になった事と思われます。他のボランティアの皆さんがどのように点訳されているか話す機会、聞く機会の少ない現状では今回のような勉強会はとても有意義に感じました。

最終校正者懇談会

「ワンブックワンライフ」にも書いた通り、最終校正者懇談会を行いました。この4月から少しずつ最終校正ボランティアを増やし、現在は10名。おかげさまで、一時は半年近く遅れていた最終校正も今ではほぼ1、2ヶ月という所まで遅れを取り戻すことが出来ました。来年度はまた新たにパソコン点訳者が増えるわけで、ますますボランティアの負担増となりますが、ご協力のほどお願いいたします。

ところで、最終校正者の感想としてまず皆さんが強調されたのは、1枚の甘さです。点訳者自身が原本を見ていることの限界、お互いに遠慮して疑問を率直に言えないことなどが原因で、当然指摘されるべきミスがそのままになっているケースが多いようです。また、漢字の読み違いや下調べの不徹底も見受けられるとのこと。皆さん念には念をいれて点訳なさっているとは思いますが、より徹底した読み合わせを心掛けて下さるようお願いいたします。今後、最終校正結果もお返ししますので、それも参考にして下さい。

次に扉、奥付の書き方が人によってまちまちであることが問題になりました。どの方法も悪くはなく、活字書がそうであるように色々な形式の点訳書があってもいいのですが、1冊の本を複数のボランティアが役割分担して作って行くことを考えれば、様式を統一しておいた方が無用な混乱や迷いに悩まされずに済みます。そこで、雛形をご紹介しますのでそれに従って下さい。もちろん新たに製作するものからで結構です。

この他、次のことを配慮して下さい。

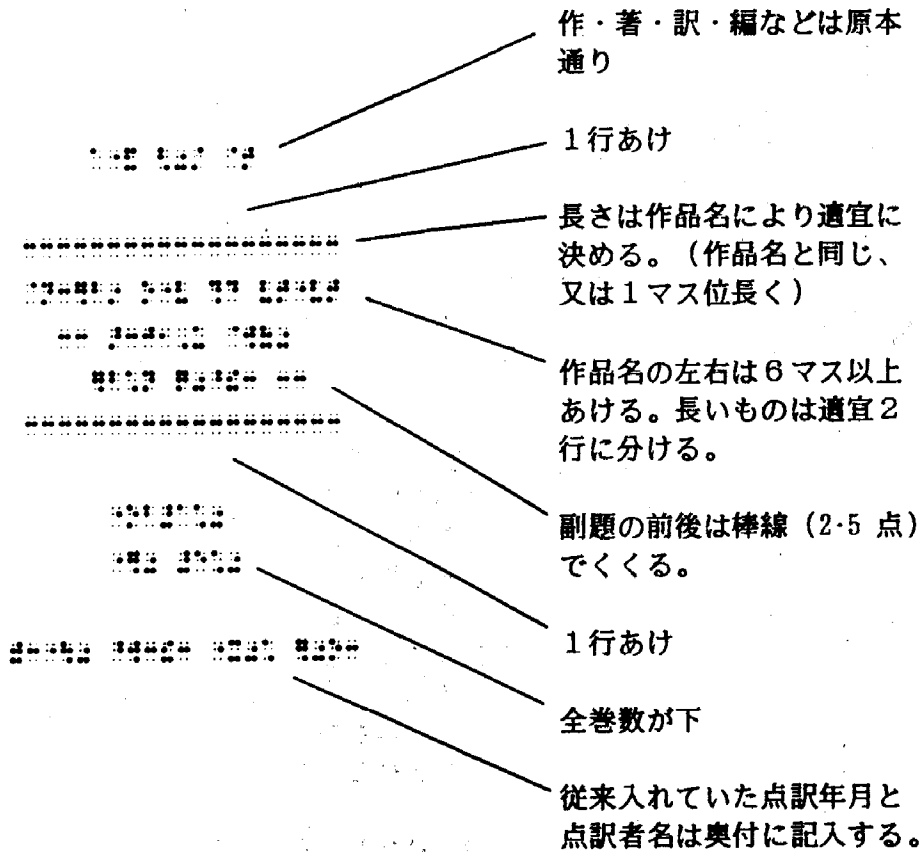
- (1) 下調べの徹底……お手元の辞書、最寄りの図書館のレファレンス・サービスを利用する他、当センター7階の資料もご活用下さい。尚、以前よりは調べやすい環境になっているはずです。そして、調べた言葉については活字原本にその旨簡単に書き込んでおいて下さい。
- (2) 原本に点字ページナンバーを書き込んで下さい。
- (3) 点字ルールなどに付き職員と打ち合わせた場合も原本にその旨書き込んで下さい（「職」とでも簡単に）。愛書家にとって本を汚すのは耐えがたいことかも知れませんが、点訳原本はいわば書き込みなどで汚すべき本ですから、本に魂があるならば、本もあなたの書き込みを歓迎するはず。校正ボランティアの為に上記の件ご協力下さい。

懇談会はこの様に活発な議論に終始し、今後もテーマを決めて研究して行くことを申し合わせて散会しました。

表題紙や奥付などの書き方を迷っておられる方があります。墨字図書も画一的でないように、点字もバラエティーに富んだものでもいいと思っています。しかし、何も基準がないと書きにくいのも確かです。下記に標準的な書き方を示します。必ずこれではなければならないと云うものではありません。

表題紙

- (1) 外枠及び書名を囲む枠は作らず、作品名の前後を区切り線を入れる。
- (2) 必要な行数から上下の行あけを割り出し、全体が用紙のほぼ中央に来るようにする。



目次

目次が2頁以上になる場合は目次の頁も入れる。
 (パソコン点訳の場合は「モク」ではなく「モクジ」とする。)

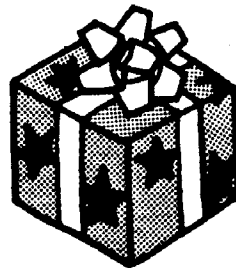
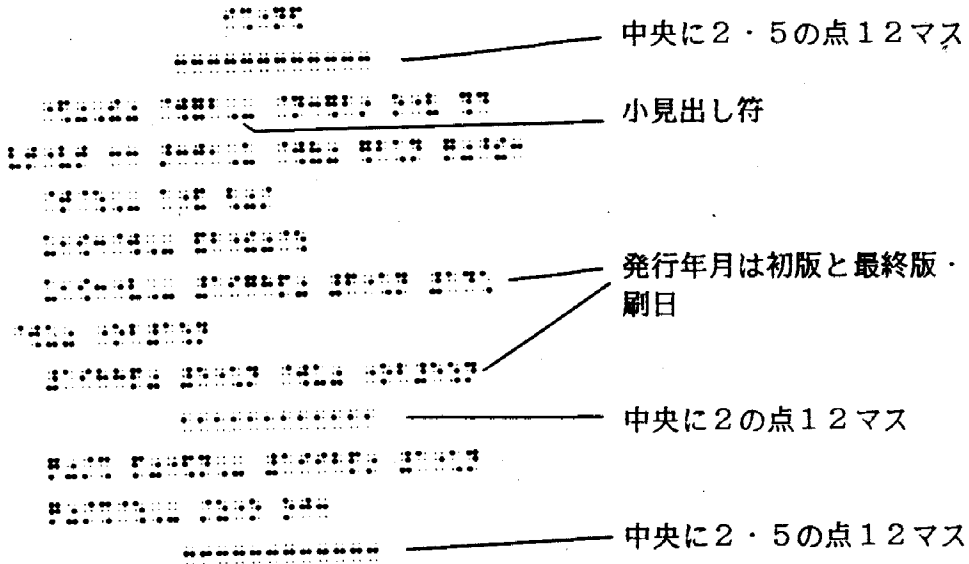
中央に2・5の点12マス

点線の前後は1マスあけ

中央に2・5の点12マス

奥付

- (1) 奥付は、原本書名、著者、発行所、発行日の順。
- (2) 中央に2の点12マスを入れそのあと点訳年月、点訳者名を入れる。



<< 下調べがパソコンで簡単に出来るようになりました >>

パソコンで下調べが出来るようになりました。といってもまだデータは2万件。徐々に増やしてゆくつもりですが、検索する内容によっては結構使い勝手があるものと自画自賛しております。

尚、現在100%検索可能なのは、

郡名	現在の郡名すべて
市名	現在の市名すべて
駅名	バス停を除いてJR、私鉄、ケーブルカーなど 8,000

です。町村名は引き続き入力申ですので、でき次第データに追加します。「まち」と読むのか「ちょう」と読むのか迷うところですが、これが入ればなかなかの使い勝手があると思います。

また、下記のデータはかなりの確立でヒットしますのでぜひご利用になって感想や意見をお聞かせ下さい。

相撲関係	163件
花の名前	1346件
山の名前	6533件
漢方関係	? 件

検索の方法

【読み方調べを選ぶ】

壁際に並んだパソコンのうち、右端と左から2番目のパソコン2台にこのシステムが組み込まれています。カーソルを「←→↑↓」キーで「読み方調べにあわし、改行キーを押します。すると次の画面が出ます。

検 索			
A	T	C	中断
終			了

【検索を選ぶ】

カーソルは「検索」の上に来ているはずですが、そのまま改行キーを押して下さい。検索語を入力する画面になります。

【検索項目の入力】

検索したい項目を入れて下さい。入れ終わったら【改行】キーを押して下さい。検索語は漢字でも平仮名でも片仮名でも半角でも全角でも結構です。検索した言葉があれば検索結果が画面に現れます。また登録されていない場合は「該当カードがありません」とのメッセージが出ます。

【ページめくり】

同じ読みや漢字がある場合は、【↓】を押すことにより、次々に新しい言葉が出てきます。目的の文字が出てくるまで、下矢印キー【↓】を押して下さい。行き過ぎた場合は、上矢印キー【↑】を押すことによりバックすることが可能です。

【終わり】

検索が終わりましたら【ESC】キーを押し、改行キーを押して下さい。すると【メニュー】画面にもどります。1回で戻らなかったら、戻るまで【ESC】キーを押して下さい。

データは定期的を増やしています。現在ではまだ貧弱ですが簡単に検索できますので辞書を調べる前にちょっとさわって下さい。

使い方に関してわからない点がありましたらご遠慮なく木村までお尋ね下さい。

⊗

掲 示 板

⊗

- ・点訳ソフト「BASE」が新しくなっています。現在のバージョンは 1.59 です。BASE をたちあげると現在のバージョンが出てきます。これより古い（数字が小さい）のをお持ちの方は書き換えますのでお持ち下さい。
- ・点訳ソフト「BE」がバージョンアップしました。待望の図形が簡単に描けるようになり、大変便利になりました。残念ながら JX-5 をお持ちの方はこの恩恵にふくすることは出来ません。
- ・打ち出し依頼表を作りました。校正用の点字や墨点字の打ち出し依頼のフロッピーに添えてお出し下さい。
(印刷してから気がついたのですが、ページ数を入れる欄がありません。備考欄に書いて下さい。)
- ・点訳通信が遅くなり、深くお詫びいたします。
今後出来るだけ(!) 発行日にあわすようにいたします。
- ・IBM のパソコンが福祉価格で購入できます。詳しくは点字製作係りまで。
- ・読み方調べ辞書のデータの校正に困っています。来館された時、少し時間をいただけませんか。時間に余裕がある時はぜひ木村までお知らせ下さい。
- ・皆さまのご意見をお待ちしています。3階、点字フロアの「意見箱」までお寄せ下さい。

⊗ ~自由に記入して下さい。6時間たった場合は消すことも!~⊗